

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 25 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530143

研究課題名(和文) 民主主義は暴力を克服できるか - インドにおける州間比較分析 -

研究課題名(英文) Can Democracy Overcome Violence?: Comparative Analysis among Indian States

研究代表者

中溝 和弥 (Nakamizo, Kazuya)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

研究者番号：90596793

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円、(間接経費) 1,110,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、民主制の下で社会集団間の暴力的対立を解決する条件を探ることを目的とした。手法として、宗教暴動、カースト間対立、階級対立の激しさで知られるインドのビハール州、グジャラート州、アーンドラ・プラデーシュ州の比較分析を行った。

その結果、次の三点が明らかになった。第一に、暴力的対立が起こる要因として社会・経済的格差の存在が重要であること、第二に、暴力的対立を克服するために、NGOなどの市民社会のアクターが重要な役割を担っていること、最後に、暴力の克服のためには、市民社会の活動に頼るばかりではなく、暴力的対立を防ぐための制度改革が必要であることである。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to explore the condition of solving the violent conflicts among social groups. For this purpose, this study compares three Indian states, that is, Bihar, Gujarat and Andhra Pradesh, which are known for the religious riots, caste conflicts and class conflicts.

By comparing these three states, we can identify three findings. Firstly, socio-economic inequality is one of the major causes of the violent conflicts. Secondly, the civil society plays an essential role to overcome these violent conflicts. Lastly, however, institutional reform is indispensable to prevent these violent conflicts, which can work jointly with the efforts of civil society.

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：政治学

キーワード：政治学 インド 暴力 民主主義 宗教暴動 カースト 階級

1. 研究開始当初の背景

インドにおいて、社会集団間の暴力的対立は長年の研究課題であった。もっとも犠牲者の多い宗教暴動、ナクサライトと称される左翼過激派の運動、カースト間対立は、多くの関心を集め、研究も進められてきた。これらの研究が関心を集中させて分析したのは、暴力的対立に至る背景要因、暴力の行使に至る過程、そしてその原因であった。政治・経済・社会的要因のそれぞれについて実証に基づいた着実な議論が展開されており、かなりの成果を上げてきたと評価できる。

その一方で、暴力的対立が起こった後の展開については、必ずしも関心が向けられてこなかった。宗教暴動はどのように鎮圧されたか。鎮圧後、暴動が再発する州と再発しない州が存在するのはなぜか。ナクサライト運動が、ある特定の州では過激化するのに対し、他の州では議会闘争路線に転換していったのはなぜか。カースト間の殺し合いは、なぜ、どのように収束していったのか。これらの問いについて、これまでの研究は十分な分析を行ってこなかったと言える。

暴力的対立を解決する処方箋を提供するという観点からは、原因の探求はもちろんのこと、解決されていく過程を検証することも重要である。代表者はこれまで、1980年代末から1990年代初頭にかけてカースト・宗教アイデンティティに基づく暴動が多発し、1990年代後半には上位カースト地主の私兵集団が低カースト貧農を虐殺する事件が頻発したビハール州の事例について研究を進めてきた。その結果、社会集団間の暴力的対立の解決に民主制が重要な役割を果たしたと指摘できるが、ビハール州一州の事例だけで、この結論を一般化することには無理がある。同一の憲法下で同じ民主制に基づきながらも、宗教暴動を繰り返すグジャラート州や、ナクサライト運動が長年にわたり活発に展開されてきたアーンドラ・プラデーシュ州のような事例が存在するためである。このような民主主義の持つ二面性をどのように理解すればよいだろうか。民主制の下で、社会集団間の暴力的対立を解決する条件はどのようなものだろうか。この疑問が、本研究の出発点であった。

2. 研究の目的

以上の問題関心に基づき、本研究では、民主制の下で社会集団間の暴力的対立を解決する条件を探ることを目的とした。事例としては、2002年に大規模な宗教暴動を経験したグジャラート州、1980年代末に大規模な宗教暴動を経験したものの、1990年代以降宗教暴動の沈静化に成功しているビハール州、左翼過激派の運動が活発に展開され階級対立の深刻なアーンドラ・プラデーシュ州の三州を取り上げ、具体的に次の三つの目的を

掲げた。

第一に、各州における社会集団間の暴力的対立が起こる過程を明らかにし、要因を探ることである。第二に、それらの暴力的対立が収束する過程を明らかにし、要因を探ることである。最後に、三州の事例を比較検証することによって、民主制の下で社会集団間の暴力的対立を解決する条件を提示することである。

3. 研究の方法

海外調査に関しては、研究期間中に、ビハール州に3回、グジャラート州に3回、アーンドラ・プラデーシュ州に1回の出張を行ない、上述の目的に関する調査を行なった。国内においても、一次資料、二次資料の精査と同時に、他科研と共同で研究会を行った。加えて、人間文化研究機構プロジェクト「現代インド地域研究」と協力して国際会議を開催し、本研究に関する議論を行なった。「現代インド地域研究プロジェクト」国際会議においては、2011年度には、宗教暴動に深く関与することで知られるインド人民党を研究するハイデルベルグ大学のミトラ教授 (Prof. Subrata K. Mitra)、2012年度にはアイデンティティ政党の研究で知られるニューヨーク大学のチャンドラ教授 (Prof. Kanchan Chandra)、2013年度には宗教暴動の研究で知られるイェール大学のウィルキンソン教授 (Prof. Steven I. Wilkinson) を招聘し、議論を行なった。

4. 研究成果

最初の作業として、各州で社会集団間の暴力的対立が起こり、収束する過程を明らかにした。ビハール州については、[図書] が宗教暴動、カースト間対立に関する詳細な分析を行った成果であり、これを英語で発信したものが [図書] である。グジャラート州については、主に2002年宗教暴動に関して [学会発表]

[学会発表] などにおいて国内外の学会で成果を発表すると同時に、[雑誌論文] として公刊した。[学会発表] の成果も近く英文叢書の一章として公刊される予定である。アーンドラ・プラデーシュ州については、ナクサライト運動に関して [学会発表] で分析の枠組みを示した後、フィールド調査の結果を現在とりまとめている。成果は、2014年度に、「暴力革命の将来 グローバル時代におけるマオイスト運動と議会政治」と題する論文として出版される予定である。

三州の比較分析を通じて明らかになったことは、三点ある。第一に、暴力的対立が起こる要因として、社会・経済的格差の存在が重要であること、第二に、暴力的対立を克服するために、NGOなどの市民社会のアクターが重要な役割を担っていること、最後に、暴

力の克服のためには、市民社会の活動に頼るばかりではなく、暴力的対立を防ぐための制度改革が必要であること、である。

第一点については、[学会発表、 、 、 、 、 、]で議論を行った上で、[雑誌論文、 、]として成果を公開している。第二点については、[学会発表、 、 、]で発表を行い議論した。最後の点については、[学会発表、 、 、]で連邦制、司法制度の機能について議論を行い、成果の一部については[図書、]で公開している。

第一の社会・経済的格差の問題に関しては、2014年度より採択された科学研究費基盤研究(C)「民主主義は貧困と格差を解決できるか インドにおける州間比較分析」(研究代表者:中溝和弥)において、分析をより深めていく予定である。市民社会の役割、連邦制、司法制度の機能と制度改革についても、引き続き研究を進めていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

中溝和弥、危機の政治史 独立インドにおける危機の克服、年報政治学 2013-II 危機と政治変動、査読有、2巻、2014、62-85

中溝和弥、弱者と民主主義 インド民主主義 60年の実践、現代民主主義の再検討(日本比較政治学会年報) 査読有、14号、2012、221-245

中溝和弥、暴動と経済 インドにおける民主主義と『暴力の政治』、国際政治、査読有、2011、30-43

[学会発表](計16件)

中溝和弥、Secularism and Federal Space The Study of Religious Conflicts in India, INDAS International Symposium "In Search of Well-being: Genealogies of Religion and Politics in India" 2013.12.15, 京都・龍谷大学

中溝和弥、宗教暴動と中央・州関係、科研基盤(A)「グローバル化のなかのインド」州政治:開発・環境・暴力をめぐる全28州の比較分析」研究会、2013.11.9、長崎・長崎県立大学

中溝和弥、インド民主主義の現在 下克上とその後の展開、中央大学政策文化総合研究所ワークショップ「激動するインドの内政と外交」、2013.7.12、東京・中央大学

中溝和弥、「暴力と市民社会 インド・グジャラート州の事例」、アジア政経学会 2013年度全国大会分科会4、2013.6.16、東京・立教大学

中溝和弥、選挙と農村社会 インド・ビハール州の事例、科研基盤研究(A)「広域アジアの市民社会構築とその国際政治的課

題」・京都大学地域研究統合情報センター共催シンポジウム「アジアの市民社会と国家の間 - 民主主義は有効か、2013年1月13日 中溝和弥、The Inclusion and Exclusion of Minorities in India: The Dilemma between Democracy and a Multi-ethnic society, International Conference "Looking beyond state: Changing Forms of Inclusion and Exclusion in India", Japfu Christian College, Kohima, India, 2012年12月22日

中溝和弥、格差と民主主義 インド・ビハール州における格差解消の試み、アジア経済研究所「インドの地域・階層間格差:最貧困州ビハール州のゆくえ」研究会、2012年12月10日

中溝和弥、格差と民主主義 インドにおける格差解消の試み、2012年度「現代インド地域研究」国内全体集会、2012年11月24日

中溝和弥、Peripheries Creating the 'Indian' Nation Border and Minority Questions Revisited, International Symposium "From Empire to Regional Power, between State and Non state", Slavic Research Center, Hokkaido University, 2012年7月5日

中溝和弥、格差と中間団体 インド・ビハール州における格差解消をめぐる政治、アジア経済研究所「インドにおける地域・階層間格差 - 最貧困州ビハール州のゆくえ」第3・4回研究会、2012年7月2日

中溝和弥、Minority Question in India The Case of Gujarat, "Discussing Contemporary India: Politics and International Relations from Asian and Global Perspectives", KINDAS & RINDAS International Symposium、京都・京都大学、2012年6月29日

中溝和弥「弱者と民主主義 - インド民主主義の実験 -」、「現代インド地域研究」京都大学中心拠点研究グループ3第3回定例研究会、2012年2月5日、京都・京都大学

中溝和弥、「少数派と暴力 - インド民主主義の制度と実践 -」、「アジア政経学会全国大会、2011年10月15日、京都・同志社大学

中溝和弥、Economy and Social Conflict - Comparative Analysis between Bihar and Gujarat", XIth Conference of Indian Congress of Asian & Pacific Studies(ICAPS), Institute of Development Studies, Jaipur, INDIA, 2011年9月5日

中溝和弥、「社会運動としての暴力革命 - インドにおけるナクサライト運動の展開 -」、科学研究費(B)「ポストコロナル・インドにおける社会運動と民主主義」第1回研究会、2011年5月29日、京都・京都大学

中溝和弥、「暴動と経済 - 1989年ビハール州バーガルプル暴動と2002年グジャラート暴動の比較分析」、「現代インド地域研究」龍谷大学拠点2011年度第1回州政治研究会、

2011年5月28日、京都・龍谷大学

〔図書〕(計4件)

中溝和弥、第9章「民族領域連邦制の盛衰」(松里公孝氏と共著)、ミネルヴァ書房、唐亮/松里公孝編著『ユーラシア地域大国の統治モデル』、2013、260-283

中溝和弥、Chapter 7 “Political Change in the Bihar Riots and the Emergence of Democratic Revolution” Manak Publication, Lall, Sunita and Shaibal Gupta ed, Resurrection of the State A Saga of Bihar Essays in Memory of Papiya Ghosh, 2013, 69-108

中溝和弥、『インド 暴力と民主主義 一党優位支配の崩壊とアイデンティティの政治』、東京大学出版会、2012、359+iv

中溝和弥、『現代南アジアの政治』担当:分担執筆, 範囲:第3章、第7章、第8章、放送大学教育振興会、2012年

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

<http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/nakamizo/>

「現代インド地域研究」京都大学拠点:

http://www.indas.asafas.kyoto-u.ac.jp/kinidas/member/member_nakamizo/

京都大学GCOE「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」:

http://www.humanosphere.cseas.kyotou.ac.jp/article.php/member_kyoin_nakamizo

_ja

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中溝 和弥 (NAKAMIZO, Kazuya)

京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

研究者番号: 90596753